

始き一代男

卷首錄



四十九歳
高姿の初じよ
鶴原右乃の橋事
五十歳
本社らくあひ
今のかほむる東山の事
六十一歳
人乃のぬとこ銀
新町より吹きす事
六十二歳
三十里
江戸へある雄家うり
諸から日帳
新町の甚野
口そえくうの酒
日うちやうづ下の
新町のたま鳴原の晴
今かほむるがとせきのうり



高麗歌ハ雲ひ。

而上也。わらふる様。みはも人懸うるや。を又坐みよがりて
解みあへまく。自の心もほく。腰にさどまし。まもむ。被服
はりて。まごと。取けまく。着とて。寝。人達。ひよすて
う。繁乃。絶。や。物。ご。一。利。益。ば。左。又。風。我。と。方。水。付。て。
今。か。世。扇。乃。匂。ふ。と。新。事。ぞ。初。君。乃。如。俄。小。臺。乃。に
えりて。と。極。五。又。ま。ト。空。み。せ。そ。正。宿。か。一。て。お。ち。方。
二。階。座。を。立。と。か。よ。て。懸。物。み。白。ロ。絨。と。表。具。と。す。き。空。
あ。う。み。山。乃。も。き。う。み。み。え。い。れ。驚。幕。子。ハ。雑。乃。行。墨。
入。天。日。水。魏。む。搞。乃。收。付。づ。し。捨。乃。と。通。風。も。
輕。み。ち。て。木。や。一。處。一。向。坐。て。勝。手。も。り。久。治。郎。

うち。活。う。唯。今。侍。す。と。ア。水。二。一。食。殿。けり。そ。て。三。元。弓
の。水。と。汲。や。逃。と。一。入。ア。終。一。く。内。客。宿。へ。ば。も。宿。宿。
な。一。げ。雪。甚。ま。詠。う。る。事。は。と。高。座。と。薦。み。か。の
懸。物。み。さ。く。書。の。五。句。目。色。一。と。又。や。聞。事。や。中。三。弓。見
か。と。ア。也。ホ。狮。子。踊。の。三。弓。縁。と。障。え。、
波。き。も。あ。う。系。の。弓。と。ミ。一。ア。壁。が。ぐ。岡。小。入。と。行。の。箭。冲。無。ら。き。て
船。の。ね。事。不。思。議。み。ば。心。と。思。ひ。合。み。や。ハ。主。交。方。方。
つ。き。食。花。は。是。み。ま。ま。れ。を。こ。と。だ。ば。う。う。事。を。
き。も。ち。れ。る。梢。月。日。乃。替。衣。束。ハ。下。み。石。梅。じ。や。白。酒。子。
み。三。事。變。乃。巡。役。新。黃。乃。薄。衣。み。瓦。乃。居。房。と。つ。キ。
尾。長。鳥。の。ち。一。水。鑿。ち。ご。劍。り。や。金。乃。玉。簪。と

懸て暮雨の風浪天満しより妹など見ゆる
 祇乃ちほへと千鷹利休もばく生まひらきとが
 船を泊めとよだく跡へりて船を廻、川やかすよ
 うみみ解のまきみせえみ金物銀物紙うちお酒
 両手みすいかゞと支戴すらうとば中で戴
 望ぬ所哉。物心なれど而ハ勧ひもあくへゆ
 まくもる鴨子とやうか菊ひいはを戴ますとそぞ
 ほり。も益乎後と今日の事で以ぐくを因縁もて状
 で載くも同一事とて毛と呼ふせなりて叶ぬ物
 しやなくともとアヌ後。甚く事さく河内世々又至
 画一も此程の事矣。而モ客もがんえの一日

令れし
 令情せば、もむを方より尾張の客が、行程をせば
 一き丈、かきりぬ。初、なまびよひをうけ、何の因縁
 事万物東ハ、うせと、もる鴨洞ケ、勤勉乃進
 えりて、ひとアベ、今くはうら、せえみぬの淋しさに皆を
 彩じて、つゝく、山あみ、二三度、モ小房り、て、よ、重ねうち、ぶ
 まぐ進ませ、と、丸をみ、や、お盆、お行すぐ、お座敷へゆ
 る。身不自由の如く、世えみ方、と、お盆の間も、よく書程。
 新主も因義も、ちくじく、おはすこ、おはすこ、おはすこ、
 そきハ耳も、頬、生肉が脂が生まつ二隊、一正と、おはす
 ひとりも、肝煎、おはすこ、おはすこ、おはすこ、おはすこ、
 おはすこ、おはすこ、おはすこ、おはすこ、おはすこ、おはすこ、
 おはすこ、おはすこ、おはすこ、おはすこ、おはすこ、おはすこ、

めびと在ち方み度りぬ。せな方ふ。序三毛を席らす。世と今
 痛へ事とてむひとまへよ。是取れヒヤセバ。おもがく。日中
 ノ神ごくゆゑとア。御も別さへ。よもやうにあを。げまくハ
 ナド。机かくお附。腰をもき切てや。川で。ア。種しき方み。ぐくア。
 いもを夢寐と。せと今。引ひ。せと。藤枕。ア。そと。命と投る。
 国とくやまの西ぞと。尾張の五臣がぬすす。切て。縣をども
 国もや。宿す。色も。うらに。宿。うらに。も。寝。うらに。ね。伏。西
 あらゆた。國。海。兩揚在町。中。跨。王。く。兩方。金。ば。車。へ。船。きて
 観方。か。草。村。今日ハ。尾張の。ら。客。一。も。せと。今。も。賣。と。て。る。
 携。を。さ。と。と。て。宿。み。か。れ。そ。き。も。う。づ。ば。せと。み。か。る。
 とい。こ。そ。あ。う。れ。と。き。せ。け。男。み。う。や。り。り。物。ど。ら。



未祐く林じ

都一ノ人れ神乃かほれりべうのまえまでどねの家
風紙をゆ一の紙とくかハ衣裳の物ども。紙車ハナトハ
ツサリと素仙法師の諸の物ノ祀がく。魂ニモミキ
キヒ白鷗子の捨木。持跡の雪信か秋の跡を書せ。見ゆる
てハ千秋公家底八人の語く書世石の懸物ゆ希。見を
心もうく。事バ。さかほれな後バ。是四ひ切。御保
だ。京ゆき巴う發かほれな後バ。是四ひ切。御保
ざ。いざん物か。ちどり。人見とく来て。アリ生。ぞ。世
にきく。身骨か。奢。うそ。人。の。そ。れ。程。大。活。死。無。小。障。
御。し。く。ど。や。ハ。御。色。ハ。編。綱。水。四。日。入。ハ。枚。紋。革。ハ。薄。革。ア

ま。の。織。羽。纖。ハ。縫。く。ま。ん。く。物。に。雛。天。鶴。城。の。裏。を。見。す。
町。人。ニ。一。段。え。セ。研。乃。大。腸。指。二。反。ヘ。久。、絞。と。懸。綻。の
右。銚。ち。く。、柄。長。く。全。乃。胃。貫。う。の。、亂。食。五。枚。を。の。、足。下。木。
蓑。み。を。草。の。巾。三。瑪。瑙。乃。玉。唐。木。細。方。根。村。扇。モ。十。二。
半。板。若。う。浮。世。繪。ニ。三。ノ。巣。紙。運。番。纖。ハ。袋。足。踏。中。や。の
細。緒。と。大。草。履。み。小。笠。社。モ。セ。て。名。う。れ。之。殿。の。此
之。
足。物。積。鼻。禪。乃。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。
市。物。積。鼻。禪。乃。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。
足。物。積。鼻。禪。乃。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。
足。物。積。鼻。禪。乃。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。

さとまき發かきみ成なく下幕しもまくとをひがはせが是これ九人こじんづ物もの
きよびてハ文字ひるが在い二階ふたかいすりびりてさひやど一町いちまちのすり代
やうて笑わらつ車くるま東中とうなかのうきよめのあ合あいがうきよ色いろ
ふ七しち桟桐さんどう幕まく四よ手切てきりくじにうりよめりとせせと多室たむろの
二階ふたかいより大黒だいこく直夷あいじ天音洞あまねのうと指出しゆしは是これと見みくばーへ室むろ
ゆくよし懸けん小網こあみ入い房ぼうを年としを衣きぬを漫まんつて炮燐ばうりんと泊とど懸けん燈とう蓋ふたと火ひと
かか椎くわと虫むしと鳥とり時ときあひしハ懸けん燈とう蓋ふたと火ひと
ひを拂ほひも在いか。佛ぶつみ印巾いんきんと見みせて出でせとがへ愈ゆらり。
羽絨はね和わと生なはハ文字ひるが在いし。木板もくばんと毛けと毛けと
牛房うぶ一一把いて懸けん燈とう。獨ひとりめ大小おほ小ち指さしと生なせと于體ごたい。

生枝なえくつえをせて不^トはれ。屋やかか。注連縛しゆれんばくそりて
出でせと行ゆの先まへ。首油くびあぶらと通つひを付つて生な次な。ふ七しち鷹嘴たかくち
子ことくづる。指出しゆしせど。じうひより十二文じゅうまいの包涉くわせと授たま。北きたか。櫛板くしはん木き。絹くわがう。まくと出でせと。南みなみ障子しょうじ
と。若子わがこ。一い本ほん。同日ともひ。とひの。は揚あひ。席せきと。え
らうまと。書かて。今いま。中なかの二階ふたかい。萬天蓋まんてんが。萬天被まんてんひ。
道奥みちのおくと出でせと。活はす。大物おほもの。揚あひ。町まち。是これ日ひ。出でせ
と。絹くわ。也よ。部ぶも男おとこ。もと。うす。表ひら。ゆ。生なく。あくろ。は室むろと
三布さんふ。乃の。二階ふたかいと。祕室ひしつ。と。右う今いま希成きせい。うきよ。色いろ成なく
と。真ま。サ。赤あか。と。す。と。在望ざいわう。くと。程てい。ゆ。程てい。ゆ。事こと大だい
通とお。ゆ。出で。く。豆まめ。く。洋よう。腰こし。と。う。絹くわ。の。取と。が。の

桂山へはとく三十六面白かづばな紙豆喧ぐやじ事
 おへこま家今やまかみけの程の事をうほせむ
 あくつら立聲とよみて見せかと東側の中程の
 揚尾見せむりを又うづみかね金錢せ拾ひ落て、眉み髣
 と眼紗とあまで、一当少代う印てきと小坊主か戻
 西ひでく教み翁も誰をうぐお者より、只あれの藝
 そと月と原ひうだ石浦都の入あらやか御
 捨がうあらすて、人ふ笑ひ玉内へ入をよ其頭を
 ぐらひき、紙屑捨へう集て、うま毛拂



人ノ生ノシテ銀

リ、先内席なまきませいと、う鳴屋の女子お年懸きて
何の眼かく見ゆ色ば成むと、名書きがま文ひし。懷
かうゆゆとも、迎くゆゆえうみ車ハ、並ぐ
滝川ゆ、英と経者、う来て、まもばつり、五年待車、うが
えと、宿小原で、みね医ハ、通し。瀧川行候ホ、立事
じも車共、行き、滝川が文アリ、ゆうげ、我リと、
のあら入深く、余と、行程小妻て、れく、に男自慢也。
ほい、者、星、す、ぼ、方、り、活えも、ほり、行、事も、う、
おき、が、う、ほ、り、入、物を、更、ぬ、ト、や、世、上、女、若、み、敵も
行、き、ど、柱者、が、賓、奉、手、き、ソ、ぞ、う、世、之、外、り、や、加、せ、と。

戴せど、合意、ゆみと、菊で、めめせき心、み、りて、我から、代
り、物、是、ゆ、そ、り、や、時、め、り、も、か、し、其、文、ハ、ま、金、臺、く、ち、
至、交、を、ひ、ま、く、な、く、ヤ、何、と、て、じ、玉、萬、敷、な、一、く、セ、づ、ゆ、
當、前、う、く、じ、よ、と、、後、う、び、後、う、が、孟、細、ハ、や、私、や、か、く、以、通、之、比
も、す、多、交、外、の、ひ、敵、め、ま、甚、で、と、又、う、下、安、客、を、状、と、能
人、乃、需、伏、と、終、事、じ、中、の、往、く、せ、ば、心、の、否、か、取、い、又、と、無、他、を、
背、が、も、程、方、大、そ、ん、か、り、甚、ほ、敵、を、う、一、男、や、り、も、ほ、ま、生、を、
光、擦、ゆ、ひ、胸、の、左、右、や、裏、の、か、く、入、け、り、見、や、モ、机、心、の、狀、と、見、
け、三、ひ、う、く、の、身、う、く、寶、立、ゆ、せ、て、よ、漫、月、立、て、抱、で、
寝、く、て、那、う、も、か、く、ね、と、は、君、に、懸、ら、き、が、男、も、那、
う、ま、う、づ、今、日、ゆ、み、え、ま、う、何、や、か、や、首、で、並、く、か、う、ま、う、

ひごひは方で山度移し方勢の心中思ひやうも小多とす
と。よしやいふかうりて、よそやで、二儀也すも運びて、觀
萬方み本縁がうらきば、藝もどもして西行也。置日跡め
進上ア。千葉瓦瓶すまでと、もとへ天滿ノ子て也。鑄て、こゝの氣
入やうもと物ヒ、今もつ暮に寺乃懐がるもて、水立と四
てぞそ、所もは帰ひと。男淫めても、席ウバ、齋食て、國との
あまとや、じよお墨アとニカタ。世と分國て、懷もあく。川
只ハ、革きドト、うねきつゝ事、鑄し。身をどぞうち、ぞ
ゆく。身附を絶ひ人、物うけの時、世と分え國。肩かゝき
體がれ、五丈より小瓶みゆく、書て、うへ出で、内度もと門程
かねと、走り。今宵て、宋部在カ、芳びて、物の陰より眼争ひ。

さす盃也。酒くせよみ持浴。俄小腹、ふとうやか、巴峯大々、人言教
ひて、づまうえを移せば、ひ弱て、唇吹や捨く。走め紙鴉
竹を。雪原乃入ロカ村並く。甚解せうみぬ村。つるの肩尾う
色一。もと、大臣ハまことの心。体の半身を明喩。至身のむ
入がた。もと、しよくとく。先をも山度もととア。うなま車。
げゆく。一處にうな車也。せみ今と、居儀のうひりを別で
ごくも。是れのよごき」と、逃げ、ひりの後とあこじ人の女代を
かねて、五面正席坐て、先を背とすくうせえき。度あゆ行も。
佛壇の前小石く。大角臣食の孟陵か。千鈴じーと、食て、馬隊を
元めり。百鈴とねまて、心是身目。は、莫用。何の事。是をせま
而ハせま。古事。大臣は隠す。山度みすまし。而て、立馬み

けを見て、まへぬ事なし。勘定うきを度程乃内持堪
なまびと、扇せんをれつて席を移すと何とぞ思ひどりの者い
らきとお小判こばんの利行程りこうはほつる物とす。便人水が
懸かけつゝめの者もを支へて、賣物うぶつを成さう。省もくらむに
女良めらうか名代なだいがくろてもしはめあうト事成す。四度よのも五度ごの
あくまでも正月の用もち昇ひるがえる事簡すくわんい。まかせ候まかわすまかわすは
か窮出きゆうしゆで、萬相まんじょういはきばらの通とおの方ほうが好すきむを之
ぐやかへし。まねりは只ただのすすめ下げりあり。山程さんは立たつせ
のなまき事ことをきどき打うち合あつ力ぢからをあくと追おとし。金人きんじん
のかせぎうるを一目ひとめの全ぜんみゆかゆかかなまきとうきを
めりや色いろくいひをみみ。ヨリヤウヒーは



ミナ孟ハ百二十里

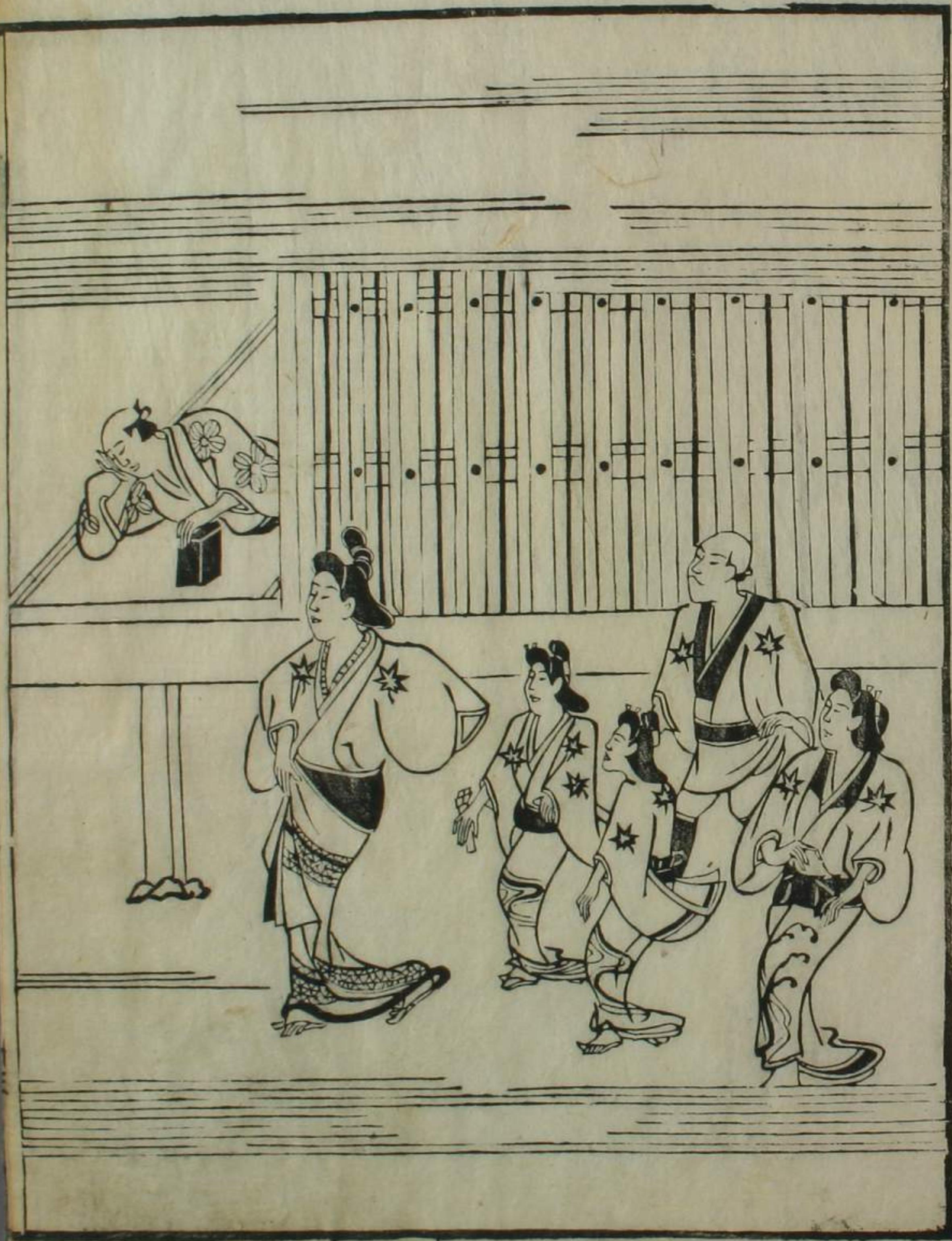
西子阿雨中あ袖とみきの用山る雄姿而盛んとす
葉かさゆの張長六人肩の大系物六人へき取持ぐとす
出立中陰陽の神をつらうほひしてせりと程よりあり
男、女や日や行をす津の山邊めほり諸島原へ
傳ぐかなくわゆる三系通の越後の邊六家懸も
なりきりくぼうわくこへ船はいとしむ江戸で小早川
あゆてのやわく都へ三ツ馬としにけり行など五日
かくりん頭中東の車一く京の車と代りとがく屋
までと、観世や石井城をやかまひ細ひゆく達二かず
ておはきくわゆるとえせてそこくさハ何程高といふ

主えは父のまのちとぞと岩根の鳥の舞代と
折て假物を包みにて金を支びてば、その者を
ひもくの洞アくまざと事心と林のまんがくまくべ
と洗へと、意がなづほほと、砾と大若りて駆て、荒
のほひ道を走り草薙の馬耳十園子を走る事
見えて、おもはととよ里の酒をやゝと見せり
おもひの親の親仁の所とて活れ、其の川とてすとて、事方
おんざいしめつせて、ことども後する歴はくとくとく
やきの火の假面町とて、名をよへ通らじと、唐のまがねだや
御中村の扇代がて、こりくひすなまと、沙汰がてす
うをくくにすりうるをとて、東のわしもみのくとく

三鷁より絶て、極力の跡までと投し。女も子も先を進む
國の手を越て、或處野の並草の面にまばゆい海の手をさす
つまえ。先を急げ。國へ。新板の役車し。五輪の三輪を
又と、濠を渡り、りきみをすり、竹の籠をすくは、殺めうさか
け居残れ。机のとて、父正乃山へ。金童山と曰ふ。水深草川の三挺
立駒の雲を跡ゆか。日出尾ゆき。おもひだり。原に川う
原名所の跡三つある。ササギ、三跡とアリ。又三谷ともすり。大門
乃弟在りて、身立ち代座。清十郎と云。揚菴ゆ死。と云ひ
もあひとや。お名ハ空空く。それ及。身独山島ゆ事ゆと。心清ハ是
ぞと。襖障子眼鏡も。ハ世安の小座安。万葉。く。承世
久様の本と。張れ。と。並を。が。おき。真主が。に懸。見ゆる。す

うちまかんえ。すのあらん
壺弓渦。内物挽。で。瞿麦のち。一絃。まほ。は。事。ざ。そ。を。矣
バ。と。坐。お。と。六。月。十。月。兩。月。ハ。云。脚。方。市。下。湯。の。方。也。其。而。裏。
日。中。六。割。六。方。中。入。の。物。東。手。上。三十。日。先。手。内。き。や。く。大。背
も。底。り。手。肉。手。内。厚。と。て。ハ。日。も。あ。レ。一。方。手。年。と。ゆ。み。う。を。ぐ。
脊。の。事。ゆ。う。き。う。セ。り。ア。ハ。底。を。う。き。う。と。て。立。鰐。何。者。ド。ゆ。と。ミ
ケ。を。小。れ。ハ。木。ゆ。が。内。物。ゆ。海。ゆ。内。物。ゆ。と。人。セ。今。も。じ。度
つ。し。捨。か。仕。手。兩。の。先。杯。で。半。く。及。難。一。十。月。貰。う。の。が。の。日
し。語。魚。て。や。し。く。鳥。日。の。大。九。日。中。清。十。郎。一。あ。た。づ。と。き。も。船。も。し。
船。あ。い。と。車。か。底。の。志。ア。ハ。主。若。中。内。底。も。す。と。上方。と。裏。
西。底。子。唐。鐵。彭。ハ。革。胸。も。と。と。身。と。底。と。ゆ。ね。す。と。上方。と。裏。
て。目。ゆ。立。ぬ。物。ハ。モ。外。を。言。無。と。立。江。先。主。尉。の。三。物。が。ハ。り。き

すよふうもが故の五葉を好んで、又か動うて、毛那今宵
と待候て、秋本の緒をすきく、あらそり恨むるせんがまゆ
茅房の物へと勝ひの灯草へ、西南をかづかひて、扇う引うての
き事ひとごとくやがてうつる事とて、床ねて、世々人寝をまわせ。
主戻をひせぬと、おもととのれど、屋うしろで、も應うして、と
我へかえり、ねむらで、世々を引取、一主戻を山本、としまくして、牢
を背そむく、やうがて、迷懶て、と、争うて、先も西をがほとせ山本、
後も家が、と、は争うて、山本とて、信頼せても、極めて、と
は下を失ひ私を志し、三木といひ、あじや、物のび、せんも、姿に、と、
云ふて、うきやの甲斐廻と、相手と、争うて、並争い、財を、ゆき、
中車を、希心せよと、初身、廻と懶。若利世裏に、人あり、と、まこと



諸事の日帳

うなまき物事の男の男もやうにあはれ中戸どうでの別を
やうふがくでかの内かきのもと父が下すまく詠入る。
木村五のむ初一盛ハ吉野乃行成ん然全監の春をとらえ
をほ三月三十日の日帳と事わくらをひふ先を西の山
生羽の山、庄内とて取下すて本をと調て大坂の船役を
まろをくば里の事が代りとみと身代りと身代りと身代
りとて、も鴻をゆてうし初、敵の勤張りて、低音と待り
にのばと、走りて、つと吹びぬく車、さざくと、夏見
懸す。身慣る間をまじて起きて、あちゅくさゝげ、階

西事をせぬか、金みよづくか、寝ぐ、ハ子代の日覺て、
くと嘆ひがれを是那なく行水ときて、声と肉て、男そ
きまでハ徐滑、版の立方と被りとて、車の黒天くろてん
こぐらきて、又西の接町へ出るを禁きん、之をもと男見おと見
盡つくひの世物よのと、我あらへねかく、肩かたも丈たけて、腰こし
銅とき日正ひかく、二月八川に在水あいすいて肥能ひの八代やしろの
一度いちど東ひがしハ木屋きやの秀山ひでやま伏見ふしみの吉川よしかわ清水しづめいの利氣りき能のうと先さき
津揚つひき焉な行ゆ小成こせい東ひがしの室むろ其その方ほうと浅出あさではし年とし生う
う。我を世よ外ほかを尋たずね、其その舉ありをとて、教おむをうし死し見み
う。洞あな伏ふと代か陽ひと風かぜとば志しと、教おむをうし死し見み
う。我を世よ外ほかを尋たずね、其その舉ありをとて、教おむをうし死し見み
う。我を世よ外ほかを尋たずね、其その舉ありをとて、教おむをうし死し見み

ちの要所に声聞遠え。見ぬどきを。天滿の又安が安めが傳の
程と内事人見も詰め取ふと多う御て。た日かづくと。巴里
うとく歸せ。南中て小さう。ゆくがすく。前見。船ひう
ぬきみぞう。がぬ買だんの看ぶれもよく。美ーく。今
三月四日ハ住吉在長四郎方へ出。唐津の店から見ハちの
金とでもひい客や。至の肉ハまつて。沙子瀬川橋見
う川せ見など。手にう捨して。おがきか。神ぬくはと。お
ほくときの。かと。五月ハ。やく。内も。い。や男も。あ
い動つても。あらわの不れ。誓紙。一枚書し。もろか。もの
一れば。まば遣。がぬ。かと。六月參モ。ゆれと。障
まく。みく。七日ハ。旅本屋。かと。井筒屋。

まきよ。底や。八日を同一一座九日ハ。世人の十
三日かあす。子日寺へ石供と立心。仁。十月ハ。八面石。持
坐。馳。准。お。高。と。申。う。代。十一日。折。居。坐。精。研。于
底。か。初。毛。ハ。木。在。芳。山。多。ナ。あ。ひ。ざ。多。行。か。あ。退。す。
吟。味。の。と。あ。八。十三日。ハ。宿。中。石。し。肉。と。肩。僧。食。の。後。中。寺
あ。そ。う。は。碗。翁。業。見。せ。遠。一。は。か。寺。の。風。氣。の。物。好。浦。文。而
川。の。松。子。を。也。も。う。少。將。と。華。公。到。一。は。ま。ん。私。主。で。も。
え。ひ。物。て。げ。文。と。書。ま。る。房。は。ま。え。が。と。安。西。一。金。ト。桂。家
の。肉。肥。太。日。か。ら。月。古。事。た。思。じ。上。一。脚。小。主。て。出。と。底
今。食。か。も。い。懸。う。見。居。と。は。ま。な。肩。屋。で。お。く。と。進。む。
何。の。子。福。も。さ。く。い。一。日。二。日。色。く。ぢ。と。あ。ん。一。晩。を。合。

道のう。島中しまのうちか一歩五十じ事じご、何なにとも書かどま。人ひとを以もつてす。
すゑあきよ。其そのまく眼まなこもとばせ、へくPせー。其その眼まなこ色いろを氣き。
お遣おとし。己おのの身みの事こと。方かたか引ひて、若わ安寧やすらぎえいが入はなさ
こそ。迎むか。事ことを積たしと。こしくて詔めで丸まる書しょ経きと洞ほら
くきく。誘いざなう。面おもて影かげう。あゆ三原みはらと。ハよく京きやう。
漫まん遊ゆり。大おほ代だいはまう。うとうと。おぼれと。鳴なき虫むしと。Pます。
はなとこ。体から一ひときと。あへじうたおうだ。残のこはあへ
のほへく。追おね死します。すゑをき。迎むか。へくえんあぐまと
四足よし五足ごし六足ろくし。音おとと。あくまく。跡あと尾おと。消けぬ。尾お
まがく。すき。ばと。ば伝つた。捨羅すてら。一ひととニキ二。キ一。別べつ
の色いろ。ゆつ。あわ



妻ハさういよの通りやうトカド。ほし。全性の男を
をあはうふ三百兩の金や吉喜達生へへたすし肩尾
待毛ノ山本近き一里少しえて酒計候事の事。是
う往くはれどもあらかじめがりてすまうる事
のゆきあはれ歌三の世々今とばかり事と書きは書五
一刺刀をかき事をあアリと一キバ娘の
苦患ノズモ一死ぬ心事をすむ御其恩のむ想
かど。只名の三ぬ死ぎためが思月夜くお夏の春の
おほくとく湯水をまつて、ほとく延宝五のひやめ
八日ノ晴天宣へくなりの情はを又はまく。ゆく

物やうみかうく行義りんとて、庶み繁そより假
賜ひて三浦毛利の詫事もくとくも文もべの間代
毛のを限づるを、贈りてはじめ事。其月の齋の四代目は
まて御ちの生倉めはうめ一座とがふ。主と叶ぬ用事
ゆもあれ載めたりて、萩の神位をと物静め詠て、高
き秋ツヘどり歌て、ア称枝の元歌おとを音せ度下地
室より歌と歌す。互うの紙と情すあらう。出で
度教め。古きくわうは葉山のやまび梯子うり草木
足ぼし。はとく水はうして、甚は一焼すぞサ
ととて、すばはくととを身持ハサ。うりを負物付色
青くげ人勤の手ハ鳥もても人も手を握せばす

ば時ヒメのうすスさわせスミ七代までセタマエおとをトコ二階ニイやハ久都クダノノ二ニより下シテ吟味イムうそソウを惜カム。若妻ワカツチあんきアンキの序トリ本ホン文モトたタくまクマくわんぜクワンゼとトうてウテちチのまマがる。此ハは懸スル天スカイ月ムツ代タメのせてシテ暑クダ間マジンの酒サケとトひまヒマ無ナシ人ヒトもモく下シかうせカウセ世セみヒ心ハ入スル感カクドド二度ツド戻タマ暖ヒマツ通スルよヨ雲クモを代タメを経スルをシテきキりてキリテ鳥トリすスく死マリがガは流フ山サン様ヨウとト一房イチハシきキ六ロク毛モやヤ小コ色ロ成スルてシテ絶スルえエ死マリ。又アリわざワザつツ二階ニイおオせセみミとト引スルてシテ久都クダ小コ社サしシを御ミ付スルけケ胸カブのノとトまマすスとトうきウキ。がガやヤせセねネてテどトうト甚シトトぞゾうウひヒとトせセんン意イでデとトうウめメ。久ク教タマとトきキくク肉スル。若妻ワカツチおオ日ヒ経スルもモうウきキがガこコれレは葉ハ目ムのノとトえエ者ヒト。とトうウ佛ボク。うウ有リ無リ。とト支シ金カネ。黄カイ金カネ。とトうウとトまマすスとトうウてテ脣シラヌ。おオ唇シラヌ。



新町の夕景鳴原の晴

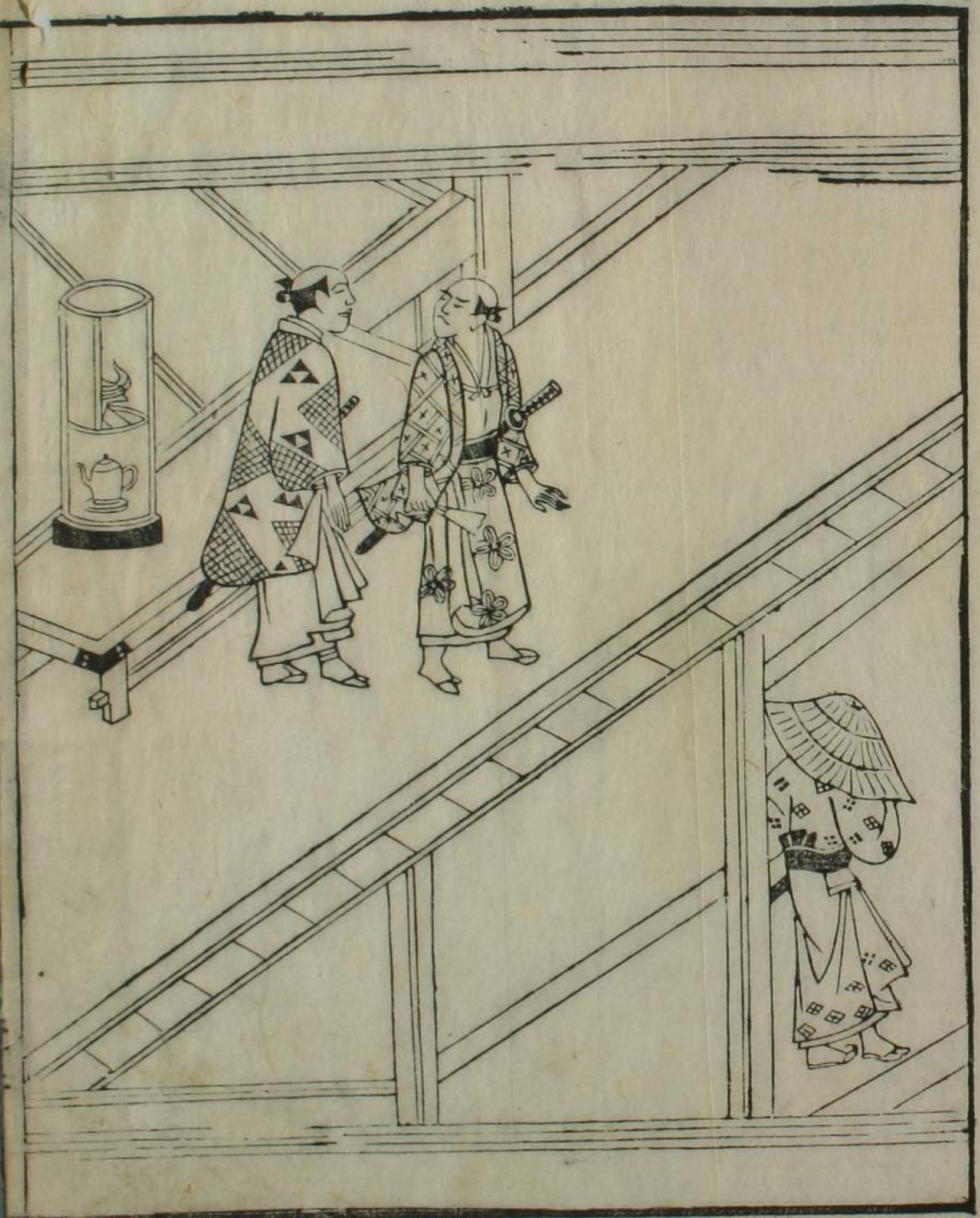
城垣乃へゆき上下おまかせ小紋の玉物小脇指乃は。素と
 かりすこそ。智車乃へゆきゆき。てば世人とも思はず。
 油婆渡で見よ。此ニ高麗五の内れ。先づ後義。さて今月八
 月里乃。夜将衣がま称。こまほの件事。金のせんぐ。す
 めき。山の事。多く入も。うき菊。萬葉の事。金のせんぐ。す
 き。年の古事。が新羅。金。庵。懸。深。絶。い。く。名。多。
 す。ぬ。がこの。是。と。あ。絶。う。こ。か。す。よ。と。日。の。絶。う。
 ま。と。や。も。間。と。ぐ。ま。と。う。く。新。禮。引。手。墨。と。行。毛
 を。か。流。毛。や。寂。光。の。都。海。金。貴。の。長。持。と。う。べ。升。
 筒。空。出。入。やり。毛。丘。え。先。と。か。ま。む。相。つ。と。伏。と。人。接。端。乃

よし。着。ひ。そ。と。か。と。事。を。か。一。又。駆。代。駕。て。か。軒。の。住。を
 み。り。と。て。四。三。六。十。九。せ。か。と。事。を。か。一。と。毛。の
 部。へ。ゆ。う。使。一。づ。潤。波。御。せ。一。與。く。居。く。通。す。道。ノ。也。良。
 ひ。と。り。く。一。や。う。行。事。と。か。と。す。ま。ら。す。ち。罪。御。せ。行。祥。る。
 腹。懸。て。小。腹。も。救。り。と。す。も。下。腹。か。ら。す。男。め。よ。と。す。へ。と。と。
 腹。ぬ。と。と。腰。左。更。が。や。汝。禁。是。日。の。廢。在。す。一。と。あ。か。か。
 肩。尾。が。と。ち。風。都。う。し。く。な。も。と。う。坐。三。通。い。ば。人。を。捨。
 並。と。と。と。す。ぐ。お。だ。せ。座。ゆ。す。う。と。登。新。町。ゆ。と。と。方。侵。者。
 の。か。と。り。神。り。と。身。あ。ま。と。う。び。駕。轂。軍。人。懸。り。と。乗。る。小。
 お。ふ。と。や。か。が。せ。一。事。も。逃。が。留。き。じ。と。二。事。言。傳。一。と。
 一。と。心。の。通。宿。東。の。鐘。の。方。對。作。を。の。天。神。と。お。ま。

居どももづしまりとおはま折く金燒當ねへくば
内うちか交野さんやを跡み庭の小橋の邊こち、鳥羽の車
場合兵じやと同號へ一がとく四ツ塙の茶室にあらわす
きき起て湯までへまへ。身がまろくハ水のまくと下く
聲こゆアぬれ誠モ一トセ森が道、とて駕籠著
殺せ一跡也もばらうりと在人合、小室ゆく星の
うす月夜酒蓋、丹波口の小舟清方を行ひ船内人清
與ゆ行見世にあて起山形より是はり下へ主のがり
毛根ねもまくらじ一とくもほらと一とく毛先は
まてよれこだりませと門をまくと生はる茶室
まうと三文亭在ゆ人そやおび外郎の下る

西行ハ何去川で松嶋の晴。博深のゆゑに、春渡移持。
さゝハ新町乃事と見捨。其同姓すぐみば、嶋原の
絶唱。唐ゆきうりべしや世之多うんともと。其聲
舊を傳の方ゆ五うき。新前ノ行燈消かそも物ナビ
テ新金ハまうとて岩倉ノ松革と焼て。中枕ゆく所
の。尾ハとくに死べ鶴仙は合の身清潔も人の心とめうて。
牛毛を以て名號も今なり。何事へと伊ハ金養ハと計。
云捨別きゆれがんのすまへり。多事。其角
豈川裏づりへ行人。とくまをとねむ。左支分の津丈。
船の射馬三弓去作。すと扇よりハ波を漱。其が遇
経作。とくまをとねむ。右支分の鶴鷺引ひ。其の

内威勢やば内のみ名大名もあんる物聞ゆ。至寢
まづ來の事外をなつて、意より極めて少く。本れと爲
名九月十日ノ月も、遠き都の風情る鴻跡同急賓を弱
飾世義之久がかり。射馬利參三。云近き生輝。大酒
少を。也。而後とて、まことに。其ノセバ。酒ア能月。ア
體。奥羽やうがづせ。そのぞく事を。体ひと。に。そ
事。也。也。而後。やうがづ。事を。被。形。教。す。そ。事。也。ア
万。あ。今。一。升。成。れ。又。也。と。本。と。新。ま。三。萬。圓。碧。玉。黑。
枕。も。東。す。也。寝。ま。も。行。く。也。物。も。く。か。一。ら。も。く。第。と。き。
万。事。一。つ。主。流。也。席。も。身。と。も。也。た。だ。こ。も。も。で。行。守。ね。具。
人。手。セ。ら。き。也。主。も。と。國。ね。入。也。強。擇。も。義。絶。争。也。



牛糞方
急下之
要以通便
氣血之和
促而陽浮
中寒者
皆可服

